

遊夷行程記

西部

上

ル 4

3729

1



門 4
號 3729
卷 1

早稻 大學
25.7.5
和 賤 柴

蝦夷行程記序



務農者必先見來歲之曆以豫
定其耕種稼穡之候。則時至不
倉皇。遠行者必先見驛程地理
之書。以豫計其山川險易道路
遠近。則是進不迷。誤。故曰。凡事
豫則立。道前定則不窮矣。夫蝦
夷之為地。在荒陬。先是人跡少
至。世辨其方向者。蓋鮮。况於路

七海道中記 序一

程乎。是以當今彼民化俗之時。人之之彼土。猶之異邦。出門茫茫。逐步求程者居多。嗚呼。行千里之外者。如是而可乎。然則當是時。通地學者。豈非宜使有著書以豫示其所向。如彼裏之於未歲之曆哉。頃者阿部亨文以家學之餘。著蝦夷行程記二卷。松浦子重以實踐之熟。校之而

求序於余。披而讀之。自東西兩部。及於諸島。其記道路山川風物。簡而詳。邊界千里。歷歷在掌上。覺神遊其境。於是余喜以爲二子先得我之所嗜者也。余雖不文。焉可辭其請。嗟夫。此書之行也。人之有志於蝦夷。照之近時。所行闔境圖。及壺之石二圖。以一閱之。別於彼之地理。大

有得其要領。可視蝦夷。猶視京畿。又猶務農者之見末歲之曆。復誰有逐步求程之憂哉。則此書雖僅之。抑亦可謂當今經世有用之一部而已。安政丙辰孟春。益堂鈴木善教書於駿臺儒居。

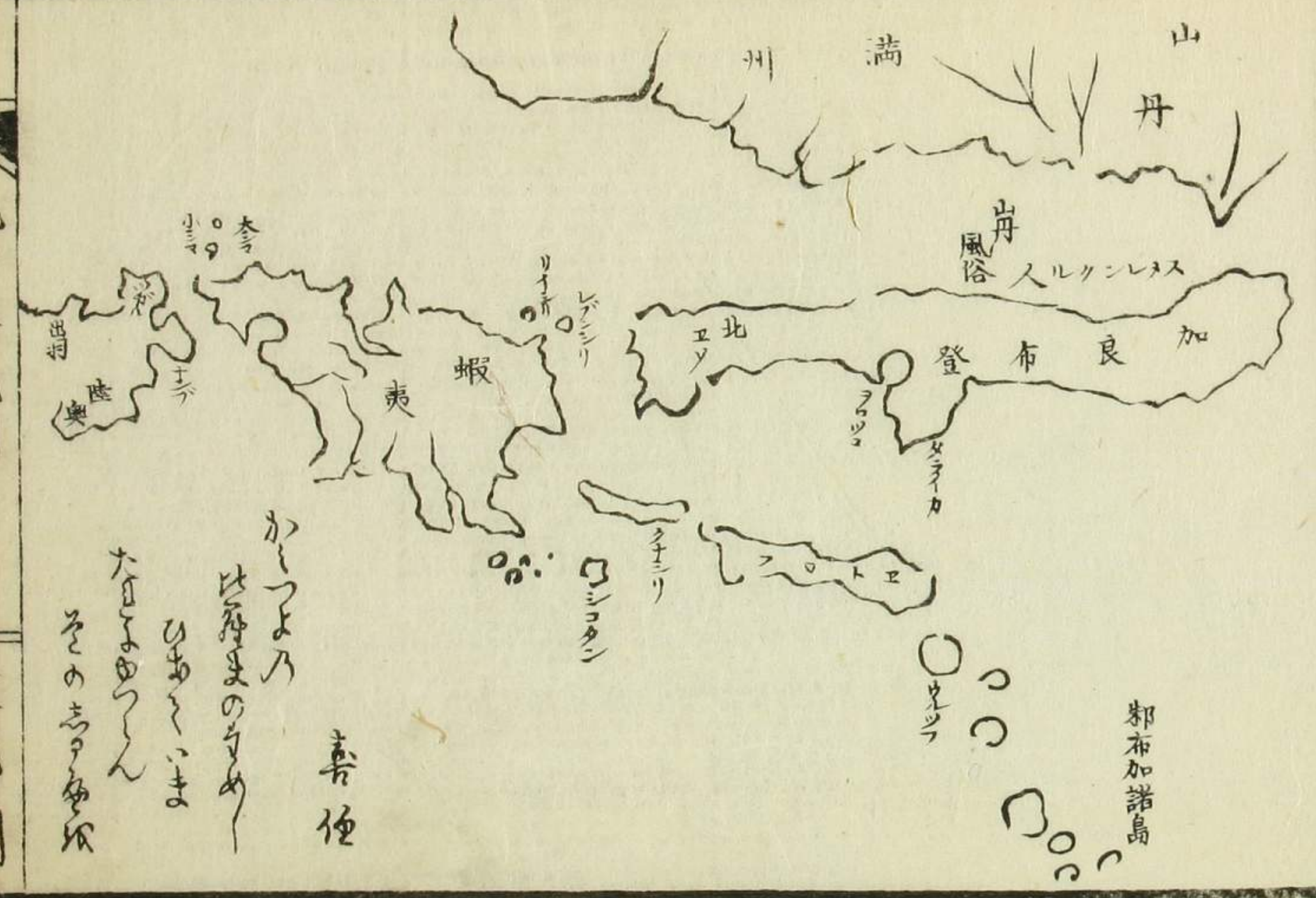


蝦夷一曰毛人。其信被髮長鬚。左衽跣足。山海經稱北倭者。豈是乎。其見國史。始於景行帝之時。嘉吉年間。源信廣略定其地。而授守焉。是為和前氏之祖。而其治專禁夷人之華言華服。及習文字。蓋恐渾沌一鑿。不可後制馭也。今也俄

羅斯与之接壤而彼日
以開土廣境為事加之
西洋法奪屢繫船隻海
南法之時墨守故法因
循舊制而可也哉近日
官新置尹於箱館以鎮
壓邊疆欲漸被以教化
更改其俗又募內地之
民而移之欲開墾其鹵
斥磽确之地故北行者

日多一日阿部亨父頃
著蝦夷行程記蓋其祖
將翁享保中奉命三
入其地所經歷山川風
物巨細收錄以藏于家
亨父較之諸書參互訂
正而所成云其書簡而
詳荒陬絕徼歷在于
指掌間冬挾此一冊子
則其地險易可以語熟

蝦夷邊境大略



一シヤリク東越(越る)附テウシ。ヤンケシリニ志
 同リイシリ。レフニシリ

○英亞海口の諸島(の)里數

- 南の佐井嶺ノ 箱館(十一里) 同ノ 松本(廿八里)
- 三尻ノ 原支岬(廿六里) 三尻ノ 厚狭(廿七里)
- 三尻ノ 得産(十里) 昭の沢ノ 箱館(廿里)
- 川内ノ 松波(廿六里) 田島ノ 同(廿二里)
- 野辺塔ノ 同(廿八里) 大畑ノ 同(廿六里)
- 津神志ノ 同(廿八里) 同ノ 松本(廿八里)
- 三尻ノ 箱館(十八里) 同ノ 松本(九里)
- 同ノ 白神(七里) 同ノ 得産(廿八里)
- 同ノ 吉岡(八里) 同ノ 江差(廿八里)

喜佐

かつよ入
比厚まのうめ

ひあついま
大百よつらん

そのちやん

別の〜をわたりの布れ後承ありみ
きけ〜もきよ〜し〜の

光徳



羊
十

蝦夷行程記卷之一

江戸 阿部喜任 葛述

伊勢 松浦 弘枝 訂

西廻り之部

箱館 ハコガテ 人家千八百軒 徳園 船福 棧の

有川 アヲカハ 二里 地あり 舟 ふね の臺あり 南 みなみ やじ やじ 山

あり 南 みなみ 津 つ 燈 とう の ひ 海 うみ と へ 一 いつ 縣 あゑん ま ま 山 やま

の如く ごと 一 いつ の ひ 西 にし の かた 押 おし と 舟 舟 ふね の ひ 押 おし と 舟 舟 ふね の ひ 押 おし と

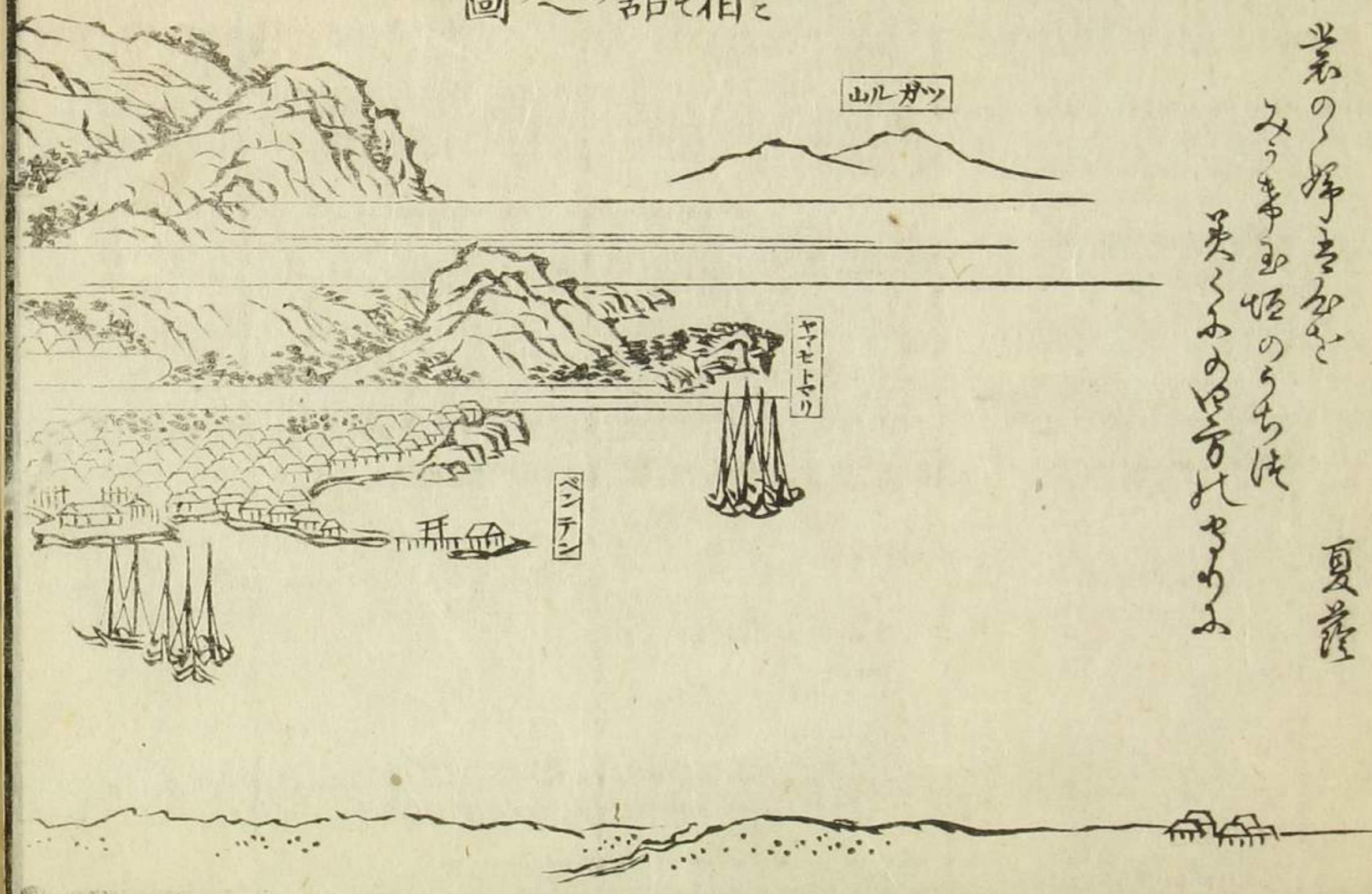
互 たがひ 待 まち サ さ キ き の ひ 津 つ 乃 の 口 ぐち の ひ 汲 ひ 不 ふ と 舟 舟 ふね の ひ 押 おし と

西 にし へ へ 舟 ふね 五 ご 町 まち 中 ちゆう 町 まち 横 よこ 町 まち の ひ 上 かみ 町 まち 鱒 ます 町 まち 東 あづま の

方 かた へ へ 大 おほ 町 まち 内 うち 間 ま 町 まち 地 ぢ 蔵 ざう 町 まち 外 そと 形 かたち あり あり 舟 ふね 舟 ふね の ひ 上 かみ 町 まち 鱒 ます 町 まち 東 あづま の

田 で 村 むら 系 けい 年 ねん 橋 はし と 舟 舟 ふね の ひ 汲 ひ 不 ふ と 舟 舟 ふね の ひ 押 おし と

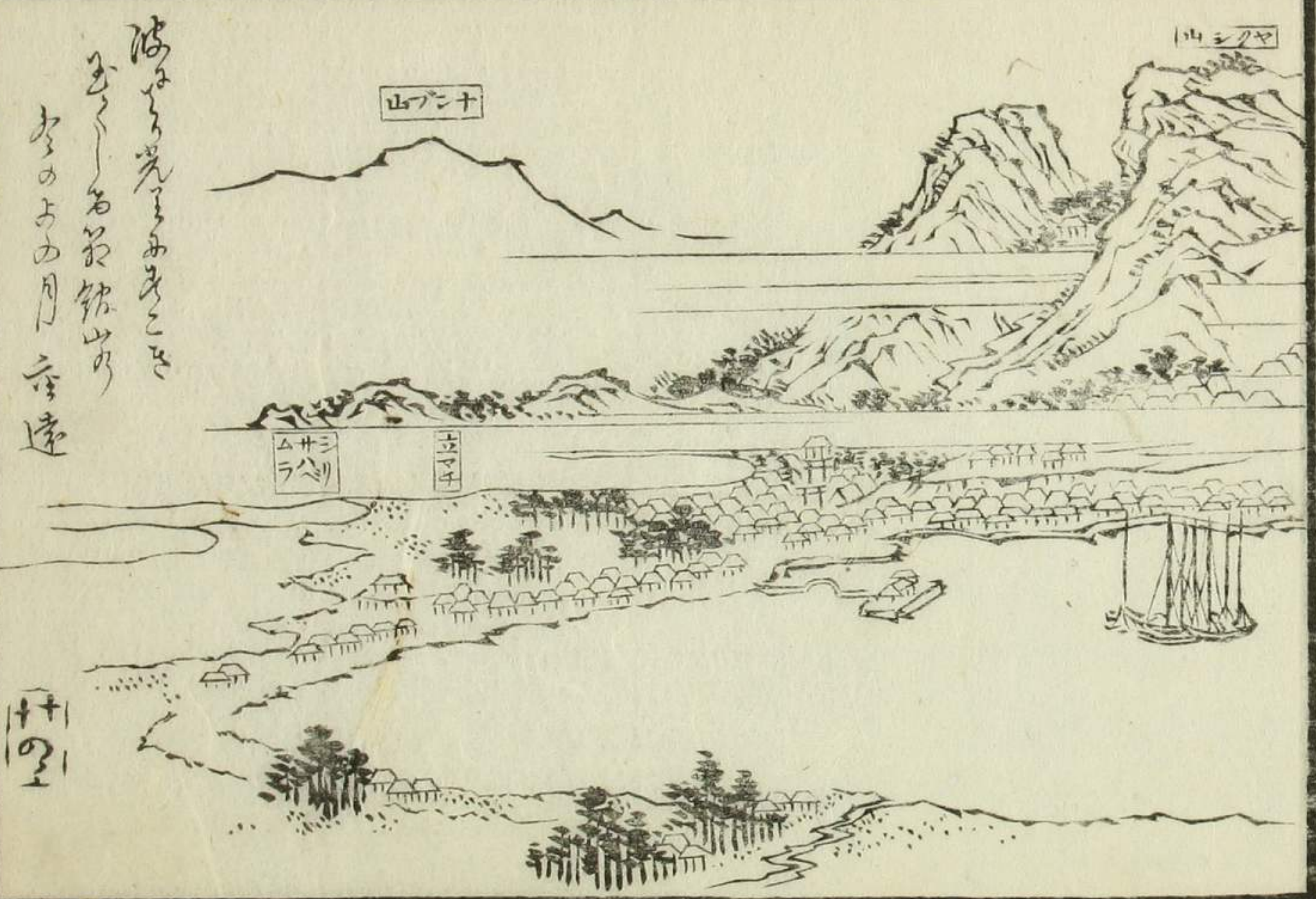
箱館之圖



業のしほきかを
 みうき玉姫のちちは
 美くふのほろれちりふ
 夏彦

山シクヤ

山アニ十



海より見たるあまのこき
 美くふのほろれちりふ
 冬のおの月 冬彦

十の

東の方言板敷此の和より文野へ連なり

有川 此和文野よりの出合あり旅籠を

當別 此和文野より村の中より板敷

加加り尾高玉才一の橋あり。戸切地村あり

その水のとどろく夏は藤架橋を掛。三谷

此辺帆立貝ホツキ貝名物あり。富川出は川

は和より東の河本道あり。由より板二あり

○天来よりとて六渡辺をゆく風ありはく

とかなるは。矢不來村より板とよりと

あるは物その乃よりたまた天津の宮ありや氏

の速なるより板とよりと川あり夏は海へ

冬は水の上をまぐる。後地村人衆元百石

後地村あり又板とよりとよりと

當別 入は合和より段人傳此和より

キコナイ 百石の松乃掛ふ宮へ旅籠を

カジカといふ名物の娼妓あり小石より平あり

渡辺をありゆ。ニッ石村。谷石小川あり。

和泉海太泉るといふ昆沙門堂あり高地村

の古刹あり。札所ふ石勒率俗よりやといふ

名物ありけ迎平垣ありて

木子内 此和人多百部余後旅籠を玫瑰

とこの娼妓を村内は遊方なる

此本居右の方津あり四十八船川三里あり

愛宕作ふる中里津作のト小番不あり段

物なる名物ありてはなるもの止宿とて

川とありはる熱川小津湯の平管府大苗

我輩て山村へあるは九世屋とのい

川と流り渡辺をゆく板橋二つをまきより知内

川と流り渡辺をゆく板橋二つをまきより知内

知内 人衆五十羽許は不難漁ふ秋は

福清は 七里 船宿を旅務をありは不七不

思後とつてこそ川端よりあのみ自ら渡辺

あく魚のふ自生を余の教とありとのいこそ

自興まがりこのい枝あり

此のころ 船より搬送う船を雇ひく後清へあり

板本小田両 人衆廿 船と過り矢張押とあり

谷谷谷向ひく福清とありは自海岸船宿よ

去く船宿は清とありは自海岸船宿よ

村とあり九世町より一高林の社あり半千ヤ

り川と流り渡辺をゆく板橋二つをまきより知内

一ノ渡り川ありありは自海岸船宿よ

去るを止宿とありは自海岸船宿よ

人衆あり二里許ありは自海岸船宿よ

福清 人衆三百羽許は不難漁ふ秋は

二里 人衆二十羽許。万七次人衆のさし

許。宮のち夕暮に船宿あり人衆二十羽許

吉岡 人衆三百羽許 船宿を旅務をありは不七不

マツマハ 船宿を旅務をありは不七不

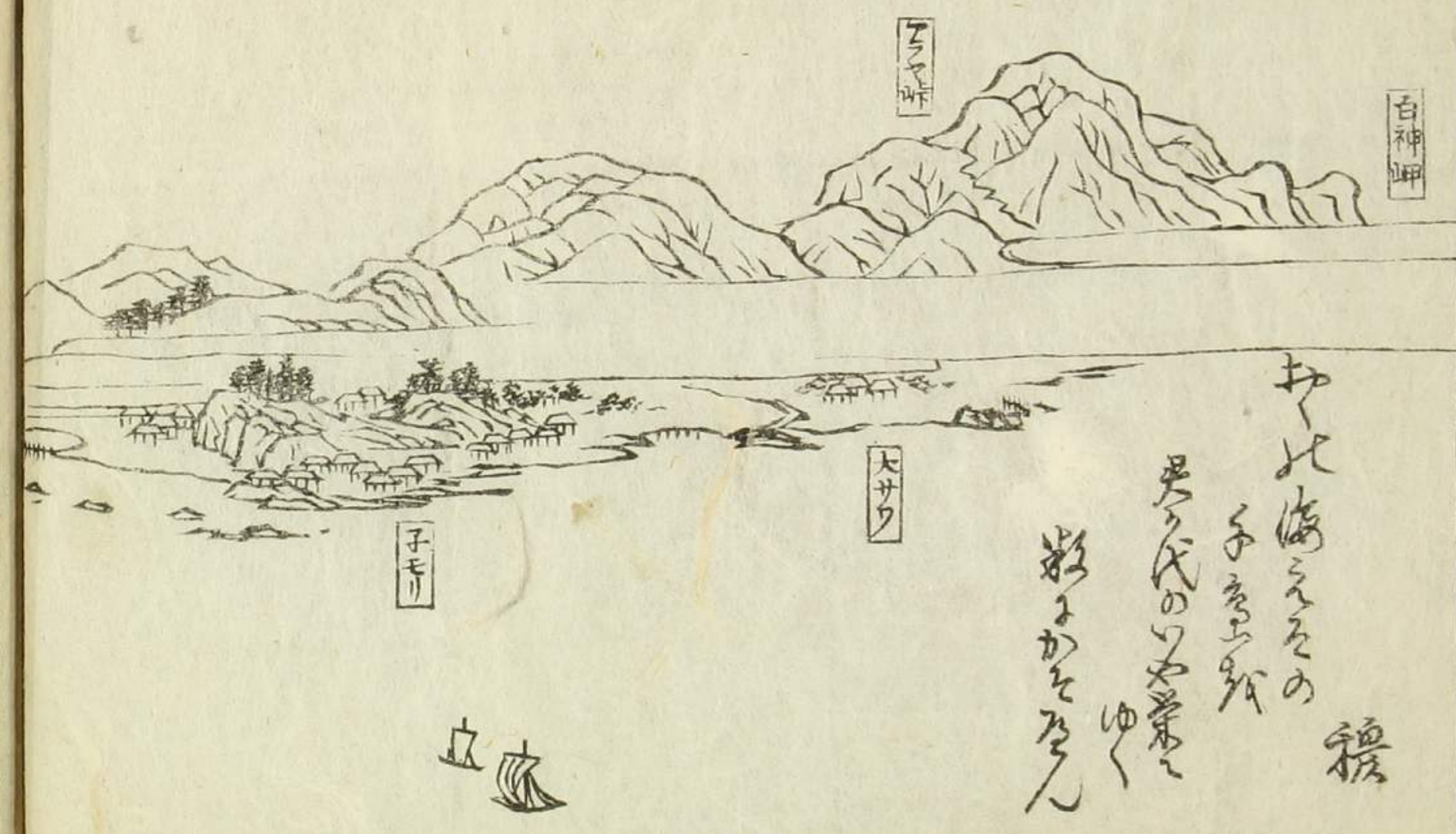
三里 船宿を旅務をありは不七不

は船宿冬月へ船より入るあり砂浜町許よ

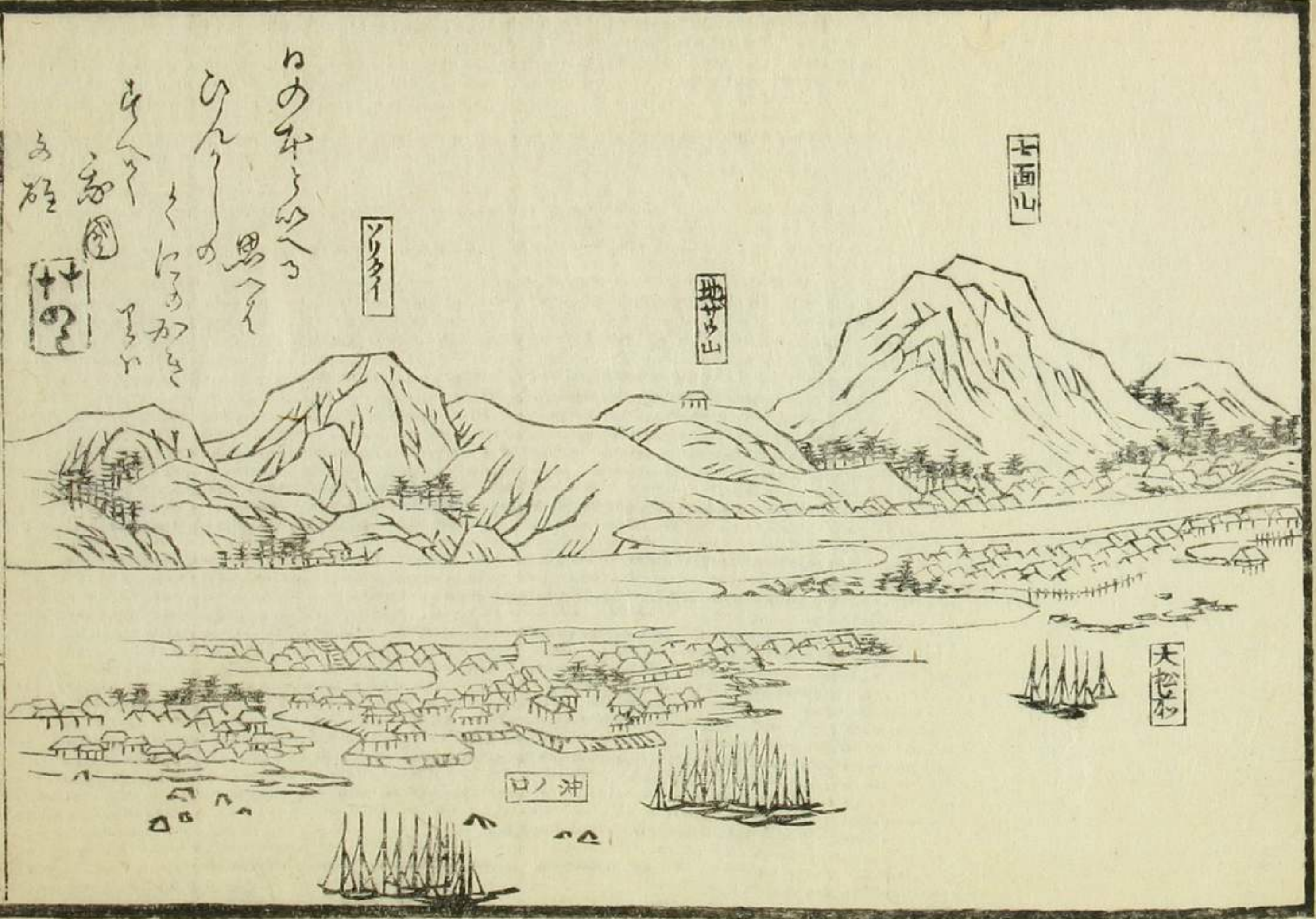
去く船宿は清とありは自海岸船宿よ

乃古名二里あり。船宿は清とありは自海岸船宿よ

松之前の之圖



此の海をその
 子キと云ふ
 是の代のりや
 船をかくん
 ゆく



ののちのちへ
 ひん
 大サワ
 大サワ
 大サワ

小松の城をえ南の方より津神南約三を
 風意言をよそし程一りそをなす小川と
 越くた渡をりせりそをなす津よりく白旗の
 村よりこの下は及人松若彦渡海の所は狼
 煙とあがりあり。荒谷村人衆日津。大
 沢村川あり。根原村昔本あり。及新村川あり
 磯とよそく田司川。泊り川は荒城下の入口あり
 枝が崎町よまのむらび馬形へあり。大松若町
 谷は横町川系町中川系町ら所津形町を介
 小町言へしそを譽き。川あり
 松前
 エラマチは
 六里
 三子町よりりぬふ七西の地を兵部ソリを
 の激乃ちの若く後紀あり元人衆
 津不沖のには及本あり上の松若彦
 此のころかきややくあり

茶へ徳園の邊松若よまの掛一をを隔く津神
 の岩嶺をそむ風系茶紙はけうがう湯石
 沢系津内町より西館くそを和あり稲知石所
 上よりあこ町生所立石野比番和あり惣徳津村
 森五の量あり根府田今家母村余。札本因六十形
 余。赤津河母形。西無石十た七形。渡新村は
 辺の村とてとく渡事のとあり大カモヲといふ川
 系あり小極は十二夜の地あり
 江良町村
 一里
 人衆百形津をこぞやあり少一の
 松沼あり氏和より小崎をり比村
 より坂へのちるジヤバミ小沢。ソマル小沢未と語え
 系は村今家母形又坂とのむらく鍵徳渡彦
 河原沢トツ沢トチク本沢オの大系本あり氏辺

百水伴小高人住あり坂を越て奥府村人
女水伴まゝ坂とこえく三ツ石村。宮のうへに
早水伴。鞘の坂。坂根村人百水伴此道皆
漢夫のこゝあり。鍵掛沢。融の沢。相浪川。相浪内
村人百水伴余小高人住ま。洵川人百水伴
十水小高人船持等とあり砂渡とあり
見目村人百水伴水川あり
アイトマリ村人百水伴余とあり深き。白米
山崎とあり川あり

熊石

クトウロ
五里

人百水伴六十水二十水町あり
斤平町あり村の下に百石の船
をるべー村中より及不ありは船あり大田とあり
傳の人の切手を改むあり及人のとあり

松送船

とも歩の路もあり。雲母傍。ホロメ傍。丸

山坂。園内村人百水伴漢夫のこゝあり。テケマの

傍ホシメ修の岸絶壁あり古松あり松木と

賑美の境あり石カイ。トリ洞。あり本。ウ

夕ウミミツ温泉尻。ヒカタ泊り。サンサウ多等

皆誠年小高あり

クトウ

フトロ
五里

運上をき水人百水九一九候
小高より船船純純馬城たら
カスへ難矣昆布等ありは帆風の揺れあり
及人の止宿もあるなり小場不白定まりける

とも歩の船をりあり百石まぐあり。大田サキ

クこの御とありり傳の石をを航とあり

英子利周王十に里運上をあり極納船
の侯場あり熊石まぐトウよりも便船
あり元あや大田石の森王控院をある
降定なるあり行くあり昭物を禁む

富士路

運上を影人あ十八水許産物
鮎のり鮎鮎鱈タラ烏絨海州ホ

瀬多内

あり。三本松岩あり。シツキ昔の道と存
あり。山中熊多一庵あり

周津

今公番倉のあり。モツタガキ、ヲカムイガキ。
ヲライガキ号と面地の三丈俣とのこの俣と
あり。三本松岩あり。シツキ昔の道と存

嶋兒纏

ハ紀より出旅へ二八北よりあり。ヲリ川浅瀬あり
サシモ工番倉あり。ライケイニ番倉あり
俣を越くホロトマリ。ベニケイ俣とライテン俣
と對して灣をあせり

周津

陸二里
海上二里七丁

周津

陸二里
海上二里七丁

周津

陸二里
海上二里七丁

一丈湾とありて能き浅あり渙少をあり者も多し位あり是より北の地なり

此不子スツベツと云ふ川は川筋と云ふ所の松肉作あり葉をとりあり止

マニ川の上へあることと云松ナイ根と云ふ物も種不きこと由葉根より種地人好く食はるるを性来と云

砂洲津

此不子と云ふ新入者女新余渙少を百六十軒あり人多しあり

と云ふ男女あり食よりは場不あり

洞あり産物ハ麩粉鮓と申し海産物多しアルト仰あり

磯屋

運上倉あり人求む六軒渙少を凡百軒と云はら多し諸人其の内

多し船宿より産物鮓昆布いと

鮓干鮓烏儀の敷山あり熊多し。三河川

後方羊蹄よりあるをライテニ押漕あり手温

泉あり毎年の力カケ石あり。ニヒナイ小苗屋

あり。アヒエナウの押と申しラムナイあり

インヤより岩内へ小舟一筋あり甚難なり

岩内

運上倉多し新入者女新余渙少を二百六十軒あり鮓多し

昆布鮓と申し一と云は難多し又海産物多し

人其子七法あり多し鮓渙中ハ衣振へ多く

種集を又申し中子硫黄あり熊多し鮓多し

海濱より箱の方少く海面へ出れば後方
羊蹄山より見るありふ方より見るは
目射ともふ雪のさゆるよふ。ニヤニヤ
ありサカツキふも番屋あり

扶留得

ニヤコタニ
九里毎丁

運上屋より人取形許淡小屋
百形許船泊ありも人住ま番地

純地りも雪を融ちありニヤコタンへ九里吹あり
とくいども雪へ十二里もあつ
あり十中より中より一と水油と
後ろたぬ雪を融ちありも人住ま番地
はうふと自在ありも妙を坊ありとのふまは礼
よりる契も女と持たせ。ヒイカキナラニ番屋
マツトマリ番屋あり。ヲカムイ押出く形取
形ありとく少く帆を坊あり。礼ありとく

ニヤレケウス番屋あり。ライケウス番屋并
み形取の船取あり。ハマナイとく川あり
船渡り

夏村

ヒクニ
五甲丁

夏村より人取形許船渡り
夏村より人取形許船渡り

ありさし船渡りもあつ。ニヤムムイ
トマリ船渡りもあつ。さあぐの奇石怪
岩ありとく人取の目を驚かす風来寺
の下とくあつ。遊ありとく

肥國

フルヒラ
一里丁

四十形許船渡りあり。小橋あり

餘市

ヨイナ
ヲニヨロト

此市と下ヨイチとの入道とを
朝人承八千五新種あり 船泊あり

海陸

二里九丁

産物純純その外雜貨多し 熊多し
麻少し 雜木多し 船又海獣も多し。ヨイ
千川名海ハヨイチ岳といふ高ふより海あり
船泊溪辺小石の系凡を里をかりてとくニラ

臨萬歳

タカシマ
海上一里九丁

狭く且いもの至極あり 産物
純煮海産漁小を四干物件此不挑李梅
櫛多し 其風景実よ 桃源も妙也と稱せざる

胃腸

胃腸の形も似る

ソコタニ漁小をあり。レホ
ヤホニムイ漁小をあり。アイカツサキ此岬と

ニクス

ニクスニ岬と對峙してヲタルナイ石カリを

高島

ヲタルナイ
海上 一里三丁

此島あり 山中小樹麻あり 樹木多し 海
糸世よいもの至極あり 産物
ありてとて成るや 魚の變化といふとぞ

砂路澤

イニカリト
里六丁

里上を走る人承七八水漁小
二里六丁 船泊あり 海獣あり 陸
踏出敷のそあり。タニ子ニラリ。ムマヤ漁小

砂路澤

イニカリト

二里六丁 船泊あり 海獣あり 陸
踏出敷のそあり。タニ子ニラリ。ムマヤ漁小

産物ハ鮭と申一の漢字ハ鮭イサナと申す也其の
 外雜魚海魚多ク人作ルル船フネを以テヨキキ
 酒サケを造ルル如クある時ハも老ラキト云フ一物也
 此の如クハクツタルウニあり然レども今
 フタルナイといハフタルナイハ是よりハ留ル
 事ありク川の名あり。ノブカ人亦ありアツ
 トマリ漢字を以テマウニ漢字ありアサリ
 漢字をマサリ漢字をチヤラセナイ漢字
 マウニリ漢字をチヤラセナイ漢字
 ホレナイ川ヲフタルナイ
 フンベマイ砂路ありキマキ又川を以テサ丁
 石イシ藪ヤブ
 シシヨロチニ
 海濱
 三十三
 内ふ九百七千許人敷九七五二三

十人もあり一漢字ハ川筋カハジマ五十三ヶ所あり
 九八十許ありといハ産物鮭イサナの多クあり然レ
 ども川も狭ヒナいといハ魚イサナ比目ヒメ雜魚ササギを
 多クあり船フネハ下流の岸キナに多クあり川も九
 半里許吾版國中一の大河あり其の源ハアカニ
 岳より出ル九二百餘里といハ河の父川といハ
 此川より東流ユウフツへ流ル小川筋十餘里
 此川より南の枝川入リユウハリといハ川也
 此川よりシユマ、ツフみ、魚休、ホロヒリ、漢字
 を裁ク
 川筋カハジマ六
 漢字ハ不フと云フヲタルナイ岳ニツ
 カマカ漢字あり魚休イサナ夫よりフサツトウと
 云フ源ネマは由イを以テ不フよりヲタルナイ岳ニツ

其内純純ハ千五百石目と出まことより一里
をかり奥子コカ子山と云る令坑あり山は
多く麻ハ少一海岸ハ絶壁あり播送船
ありゆく。ホニクニヘツ漢中あり。トコタン此
辺も多純純ありゆく。フアイ押より
イナラ押と云る。ヒカタトマリ純純も
る着風かそりく。アヨクニナイ勝あり。大へッ
為ふ建けけり。アヨクニナイ勝あり。大へッ
カリことと砂浜路あり。ホニナイ

満鉄
ル、モツヘト
海陸
五里三丁
本名ホロトマリとの入道と云
まね人取女八形船をりありが
死なすもともは後のもる若よかる番草
純純美海流その外難魚まうマニケ川

多源ハマニケ岳より出る純純より陸路も
又その物おハ播送船ありまるあり。ハニヘツ小
川あり。ニヤクマ裏あり。ノフニヤ川あり
。ピラ漢中を小休あり。セムニ土人住あり
純純よりか、此界をゆく川を船と入道へ
山中廣く徳麻管雜樹多し石川川あり
源ハ多あり

ル、モツベ
ラニニカ
海陸
五里五丁
宜上をまね人取六十七形船の
かろ洞あり川はまる多源あり

ル、モス岳といふ山より出る純純美
体前足布雜美海流あり土地肥沃と云
巨枝多し。然あり麻あり。漢中を四千形斗
二とより。ウニヤ漢中を小休あり。ラ子ト

マリヤ島にありては、魚体細と兼つて是より、
りりくまの砂路あり

負荷鹿

トマニイト
四里ニテ

大鹿をありし者まづルモツベ
依あり都合よきとて先附

まづ。ラニ子ヲニカ川あり。リキヒラ

を漢中をありては、魚体細なり。千ニヤ

物とのみ。コタンハツ川あり。十四里

を漢中をありては、魚体細なり。千ニヤ

渡備参

フムヒツレ
八里ニテ

官上をきり人承せり。漢小
倉早稲余産物大に真

海前船を伸をうみ。その後を馬多し

小舟あり馬多し送る

テウレ島

トマニイト
九七里

周二里を漢中をあり

把泥布海獣地純養海前

一里 周

九三里漢中をありては、魚体細なり。千ニヤ

魚とも樹木少し。社二基あり。出る

皆テレヲとく古テレヲ官上を支配

ありては、魚体細なり

ハボロ社不川あり。船渡し砂合あり。ハボロ

よりヤニケシリへ二里。チクベツを船渡しの

川ありては、魚体細なり。千ニヤ

越えシリヤントマリより少く平地樹多の中

ゆき思とむるハボロ山あり

赤川

テレホレ
八里ニテ

大鹿をテレヲ持あり人承あり

川あり漢獵少く只止宿のあり

建ちくは、是よりいよくなるあり

十日路の百尾末松ありはつて此れより
 一目あり石列の如く出づることまで六年お
 きにわづらひ人四種捕と捕つたのちの事と
 松液を紙に漬込ぬ出。コエトエ本休和ミヤク
 ル小川あり。ヲトニルイ屋体取の中を惣あり。ル
 チニとてく砂路をかりあり

ソカニヤナイ
 ハツカイ
 六十七丁

其時より多く者扱ふの事あり其
 派まのあり此れよりリイニリを云ふく
 濱路イキコマナイ此れホとソウヤと飲
 境の抗あり。イキコマナイ屋体取イウチ
 川をちが十八番ありとのみ

リイニリ
 ハツカイ
 六十七丁

其形前よ因もる工とてく海津小突
 物くかき流正形解元良吟より此山を云
 我が國の富士山と控へり山は流津より
 あり林少平奈あり樹木結あを成せりこの地
 極里四十及び十一分とのり重上を志と形
 漢少を世水洋人衆丸水春地雜糅昆布
 煮海胤ホありエトヒルカとてく名を云へり

沖
 周里十

方隅界
 ソウヤ
 九里
 止宿まぐーソウヤ支配あり船ハ
 東より長え入にあり大書屋あり
 東をりへる人衆漢少をあり春地ソウヤ

て一大湾とあり。ヨニニベツ川ありをみよる
人亦魚体不あり。ホント、ニ。ホロト、ニと云

佐留富津

大裏を止宿ま置一人あり船後
の川ありを廿七八里あり周

元四里とあり。ヨニヨリ砂路。ヤムワツカル魚

体不。トニベツ人亦あり又船後一の川ありを

廿里許。コイトイ小川あり。ワツカクニナイト

辺をくわうけの海岸あり

塩内

大裏を止宿ま置一人あり小川
狭海もバ支ありと云あり

然不同ありをハ揺送船ありと云へ。ア

マンホ。ニユコトエキル等の岩岸大船不

夫よりあり。ニラウニトマナイ小川あり

小体不人亦あり。ヘラエウニ人亦あり。ヲレ

夕口漁少魚体不あり。ヲホトマリ是より

かゝる魚あり。トエマキ船ヲチキリ。

ノフマツシヨおどろ大岩石岸あり。ウエント

マリ人亦あり。ホントマリ小川あり

愛佐子

大裏を止宿ま置一人あり船後
その形は目下ともかやがに人亦

秋葉よりテニホの川上之載る魚あり。ホロ

ベツ川も廿里許船後一人亦小体不。ト

フシヘツ川も廿里余あり一人亦大裏をあり

体不あり。ヲニ子ナイ

チカトモウシ
大裏を止宿ま置一人あり船後
其の旁ハ平山ありと云ハトバ

樞の本まのりあり。ヤムワツカナへ小川あり。フウ
ビツ川あり。舟あり。魚体あり。ヲチ
シへ川あり。六七人あり。トナイウに此れ
えソウヤ。モニベツの竹あり。リニラウに
此れより山あり。樹立の東あり。此れ押をエ
夕エサシとのふこの押を過くツカウテルムよ
物あり

母衣内

サツキト
五甲子

大妻倉人あり。止宿をへし。小川を

トエ子フ小川小体あり。ヲム川あり。十倉
る船あり。人あり。ヲタツコムに小川体あり

サツキ

モニベツト
八里子

大妻倉止宿をへし。人あり。か
ゆ。ヲコチ川あり。七倉あり

海へ船あり。人あり。ル口川あり。八倉

人あり。昼体あり。シヨエツ川あり。十倉

余船あり。人あり。小体あり。チカフノチ余船あり

茂武倍津

ユウヘツト
六里子

大妻倉止宿あり。今ハシヤリ。ソウヤ
と人あり。支配あり。船あり。と

大妻倉河あり。あり。人あり。止宿あり

川あり。舟あり。さかの舟あり。モニベツ石あり
黒く。先あり。摩して。ヲン子

ナへ小川あり。モウヘツ川あり。十倉あり。ヤシユ

之派あり。四里十丁。人あり。昼体あり

。コムケ上。小倉派あり。シユフ。ヌツナイ派
あり。四里。一里。派あり。十倉あり。海へ

。アノフニ小川あり

勇川 ユウケン 大峯をわり止宿をへり人衆を川

トウコロ トウコロ ありては六十百餘余船渡り。トエト

コ小休所。ワツカ昼休小をあり。トウフツとよ

派あり周ア十餘里とよ其派の海は深し

大河あり船渡りあり人衆を小休所とよ

トウコロ トウコロ 大峯をわり止宿をへり人衆を川

アハシリ アハシリ ありては六十百餘余船渡り。メチヤコ

ヲマナへ小休所。モイツは石モヘツ。シヤリの

境あり境杭をへシマコマナエとより

ホヒリシヨ小休所ありとより。タン子シラ

リをより溪邊。ハイラチ溪小を人衆あり小

川あり溪獵場あり。ヘトカリ溪小を人衆を
。モヨロ人衆あり

安和進利 アワシ 大峯を人衆あり船渡りの川あり

シヤリ シヤリ ありては六十百餘余船渡り。メチヤコ

小休あり周ア二丁は臨へ舟を船かき

をありありとより便利あり川の深ハ派あり

周ア九八里とより舟あり大船入出るなる

川ありとより里津海とよ

派ありとより二里をわり上をへり。アハシリヘツ。

レブンシリ。シヨイビラ人衆あり。ヲン子

ナへ人衆ありとより十里をわり

越へくクスリ船をよりあり

ホニムエ小川溪小をあり。ヲシヨフ小川溪小

登あり。エシヤヌエ人衆あり。モコトよみ派
あり。浪鹿十あゝるが船渡一人衆あり。ナヨ
口人衆あり。チシ子エ人衆あり。トラフツ人
衆小休あり。アラシマナエ人衆あり。長き
屋まとの派あり。浪鹿あや丸船渡一人。エ
トエ人衆あり。登休あり。ウハニク三人衆あり。ヤ
ニハツ川を八百橋を架き人衆あり。トコタシ
小休あり。

舍利

五ノ子屋まき形人衆あり。此れもを渡

十五里は ソウヤの支配方とあむり川あり

その世帯洋船渡一人あり。東松子モ口船く
あゆむあり

道と登より 十二ルウチヤル 二里 ルハツチヤ

ラシマ人衆あり。カモエノミウシヒラ 三里 ベツウ
トルクシナイ 此れも遊方あり。右ノスリ船
ニヤツルウ 舟船渡一人の川あり。ちよ十あや斗
まより二里あゆむ。ホニケ子タイ 此れクス
リ。シヤリの境あり。東松と云
たへ四里あゆむ。ワツカライ 二里 ルツシは丸
シヤリ。子モ口の境あり

是よりシレトコへ分けの派あり。名も岩角の
多くるるが船あり。ちよ六船あり。坊くべー
ニエロトマリ 一里 ウナベツ 人衆あり。ホロトマリ
人衆あり。試迎より船あり。フニエルクニ 人衆あり。
あやハツ屋と云ふ。ちよ百斗 あり。三斗
此れも岩角の派と云ふ。舟多し。風景奇絶あり。
草紙より。船。ホロベツ屋人衆あり。此れ迎の

以難不^こり三^{さん}里^り許^こり^りル^るニヤ^やあ^ある^る人^{ひと}家^か
あり^{あり}東^{とう}北^{ほく}之^の山^{さん}越^この^の乃^のあり^{あり}大^{だい}船^{せん}不^ふ之^の三^{さん}里^りを^をか^かり
大^{だい}船^{せん}の^の伊^いを^を海^{かい}へ^へと^とシ^しト^ト神^{かみ}は^はあ^ある^る社^{しゃ}不^ふ船^{せん}也^{なり}
と^と東^{とう}北^{ほく}の^の境^{さかい}之^の百^{ひゃく}五^ご十^{じゅう}三^{さん}度^ど張^{はり}の^の境^{さかい}度^どあ^ある^るク
大^{だい}江^{えい}リ^りの^の子^こヤ^やく^く余^{あま}リ^り小^{せう}船^{せん}美^みの^のシ^しト^トと^と船^{せん}是^{こゝ}
の^の伊^いあり^{あり}松^{しょう}前^{ぜん}之^の乃^のあり^{あり}社^{しゃ}伊^いと^と美^み之^の船^{せん}の^のま^まつ^つる
王^{おう}城^{じやう}禁^{きん}止^しま^まとい^いり^り伊^い他^た雜^ざ記^き云^い云^い百^{ひゃく}五^ご十^{じゅう}三^{さん}度^ど
ぬ^ぬ十^{じゅう}分^{ぶん}の^の伊^いよ^よ一^{いち}の^のさ^さの^のあり^{あり}そ^その^の頂^{いただ}は^はあ^ある^るま^まを^を
山^{さん}を^を繞^{めぐ}り^りて^て乃^のあり^{あり}樹^{じゆ}木^{ぼく}夥^{おほ}く^く且^{かつ}瀑^{はく}布^ふ花^か
泉^{せん}あり^{あり}海^{かい}中^{ちゆう}に^に流^{なが}る^る美^み泉^{せん}あり^{あり}こ^こま^まウ^ウテ^テベ^ベツ^ツ山^{さん}
あり^{あり}。小^{せう}船^{せん}出^い花^かハ^ハ百^{ひゃく}五^ご十^{じゅう}三^{さん}度^どあり^{あり}と^とソ^ソウ^ウヤ^ヤよ^より^りシ^シヤ
り^りま^まぐ^ぐ九^く十^{じゅう}一^{いち}里^り余^{あま}り^りの^の不^ふ船^{せん}船^{せん}美^み泉^{せん}船^{せん}昆^{こん}布^ふ
海^{かい}州^{しゅう}海^{かい}歎^{たん}ま^まぐ^ぐ又^{また}海^{かい}岸^{がん}は^は鉄^{てつ}砂^さま^まぐ^ぐ

蝦夷行程記卷之上附録

江戸 阿部喜任纂述
伊勢 松浦 弘校訂

北蝦夷地之部

○喜^き任^{にん}按^{あん}む^むる^る小^{せう}國^{こく}史^しは^は莫^{もく}曳^{えい}鞆^{たも}鞆^{たも}と^とり^り中^{ちゆう}
古^こ小^{せう}外^{がい}夷^いの^の多^たく^く来^きる^る一^{いち}故^こは^はカ^カラ^ラヒ^ヒト^トを^を点^{てん}と^と
り^りふ^ふを^をき^き次^じヒ^ヒと^とフ^フの^のま^ま誤^ごあ^ある^るカ^カラ^ラフ^フト^トシ^シマ
と^との^の小^{せう}國^{こく}人^{にん}ハ^ハま^まと^と小^{せう}國^{こく}と^とさ^さう^うセ^セカ^カラ^ラと^と又^{また}
む^むあり^{あり}文^{ぶん}化^か年^{ねん}間^{かん}

官^{くわん}より^{より}令^{れい}あり^{あり}と^と小^{せう}船^{せん}夷^いと^と改^{かい}め^めぬ^ぬ其^{その}幅^{はく}負^ふ
度^ど狭^{せう}狭^{せう}を^をい^いま^まと^と悉^{しつ}く^く難^{なん}あり^{あり}此^{この}とい^いふ^ふも^も寇^{くわん}政^{せい}
京^{きやう}和^わの^の二^に三^{さん}條^{じょう}

官より吏とて踏めきあらむ一は採
録せらるものより其大略を著し其日其
地を踏渡しゆく予が僕王を以て
予ふたふ一ゆらんことを其ふ

曾宇耶より海上十八里と中村橋のこ
子の徳さう間宮氏八十三里とのみ或六十七
里ともとの海ふ長己風 方言 吹風と
を晴應多し一鏡とて西南に馳ること
十の六所ありて少は針路と云ふまに里余
少く三ノイ押を過て七ノ針路と云ふと
なり風をげりたるとまに巴宮のより針路
然とて三ノイ又ニへるま

○西廻り村と漆と紀

平砂

曾宇耶より海と口あり東南

五里

ふとを貫ひ福南はおひらけと

平砂あり大まなき水産あり一全
七八水もより船をりましたる船と
く砂岩へよるとるあり巴の方まに
ノト口此地の南押ありてソウヤの
對して海あり急流のぬき海峯を
ありとて丹人地ありて交易を
海の風はも世あり。三ノイと
系祖の系あり。砂漠を十町許あり
ルナイ山の間に小澗あり又砂漠を
ントヒナイ上ふ根木あり平地あり。

北海道中記上 其一文苑閣

トモナイ小川あり。カワトク小川あり。磐石し
世あり九折坂十七町坪の坪をこもむべ。
リイベシ世礼も砂浜あり

世シラヌエより舟の人の皆播送る船
ふく出るありカワトクよりの海岸へ船登
ふく出るあり。アカラカイ世礼もまゝ敷
十丈のまゝ崖あり海より入る神とよん

ミヤウニ
モエトマリ
十里
世無人家あり止宿まゝ寛政
元年の夏魯西亜人の来船せ

世あり。ヤラチワナイ砂浜あり。ウエニチま
より出神とあり。ラソコマナイ小川あり
フレチニボ少しの平山神あり。ラニ子ノソエ
平破あり。ハホヲマナイ小川あり。チニ子ヨ

ロマへ平破。キイタナイ平破。エサニヘナイ
平破。ハウヤ。ラソコマナイ。ラニ子ナイ皆
砂浜あり

世迎悉く平破すてと云平破ありあり
ふヌカリ破とゆふがあらまゝありまゝを
難木あり怒湯のぬふ海岸へ海原をお
とせ砂をかきとくそのまゝ腐爛をり破
ありありたぐく性毒のくも用ふと死

ありあり

モエリトマリ
アルトルナイ
六里
世礼古ハナヤニとゆひあり文
家をそ斬あり止宿まゝ海原

由難船あり一難ありとも時海とありとを
おかしふあり強一服起し。ナイエニたふお

ヌカリ磯あり。トエマフ平磯あり。シラ、ウ
ニナイ社押とあり。島々。レブニツウヤ内
み入る船をまき。コタントタントマリ。ニ
フウニナイ。マチラニナイ。ウエニ子平心
あり。ナイボ。エウルナイ。大出押あり
ふくまらるべし

アトルニナイ

トコニホ
一里

大島をあり。止宿を。海獵を
モエリより。函ト。ウニニヨ平

後。ウラマキナイ。ケヲ子ナイ。アツケフ
ウニナイ社押とあり

ナヤシの西六里を。ふト、Eジリといふ

あり。因。七里。樹木。少。平心あり

其のニ他。人。多く。海。嶽。と。嶺。を
岸。海。参。多。陸。より。斜。降。よ。く。ん。ぬ

且。この。日。中。の。日。光。を。く。く。し

トコニホ

ワウニホ
二里

世。和。又。大。海。う。とも。ひ。ま。と。ト。ニ
ナイ。ヲ。ロ。西。ト。ニ。ナイ。とも。い。ふ。ト。ニ

ヲ。ロ。を。他。不。より。ナ。丁。を。か。り。あ。る。ト。ニ。ナイ
と。い。ふ。を。他。不。一。の。あ。り。海。と。い。ふ。ト。ニ。あり

を。ま。ね。り。あ。る。人。衆。あり。船。を。ま。よ。上。を。の。ま。り
を。る。海。嶽。嶺。之。の。外。雜。島。多。し。ト。ル。コ

工人。あり。リヤコタニ。此。処。の。船。泊。の。所。よ。り
の。島。あり。く。その。島。を。ま。り。この。島。と。ト。ニ

ナイといふ。エニルコマフ

和得子

ウコウ
一里

島。を。あり。世。和。方。右。岸。を。ま。り。し。て
其。島。平。地。少。し。海。の。形。を。ま。り

小川あり。ラニ子トウへ人衆あり。セトウニナイ
卯見得 ウコウワ 炭屋あり。右左之木多し。沼
アサニナイ アサニナイ の形とる。漢獵トコニホ小園ド
一里ナリ

ヲトニクニナイ小川あり。ナイウトル砂濱あり
アサニナイ アサニナイ 炭屋あり。人衆あり。小川を船を
タラコトナリ タラコトナリ 沼の木あり。沼へ入る。平山あり
二里

リヤコタン人衆あり。サツ生人衆あり。ハチコ
ウニナイがし。押とこえり。ホロナイ川あり
左右平濱あり。ヲロツケラナイ岩押とあり
あり あり

クラントマリ クラントマリ 炭屋あり。人衆あり。船泊あり。右
アサニナイ アサニナイ 炭屋あり。右左之木多し。樹木多し。又
二里ナリ 二里ナリ 又カリ砂とまらり。ホフナイ。アサニナイ

人衆あり。押とこえり。ヲホトマリと見船泊
あり。セヌクナニナイ人衆あり。ウエエエエモ
砂濱あり 砂濱あり

ヘロ子ナイ ヘロ子ナイ 炭屋あり。人衆あり。船泊あり。右
エエモコニナイ エエモコニナイ 漢獵トコニホ小園ド。ウトルナイ
一里ナリ

。キトウニナイ人衆小川あり。テイ世とヌカ
リ砂多し。マタルクニナイ。ホントマリ。又カリ砂
エエモコニナイ エエモコニナイ 此の漢か。右左之木多し。炭屋人
ヲラマカト ヲラマカト 船あり。船とる。漢獵トコニホ小
二里ナリ

園ド又カリ砂とあり。ヲニチウホ人衆
あり。ウエニナイ。フウレナイ。チニナイ川
あり。ホロトマリ。ホロヘツ川あり。船泊あり。ホニ
ヘツ川あり。又カリ砂の押とあり。右

トマリホ 世々屋敷を形人衆あり船かき
ノタニヤニレ 八里 洞より平ふりて樹木多し後橋

より又カリ候とまらるる。トニナイケセ。トウ
ナイ。ナイチヘナイ 船迎より船と沖の方へ
出り寄る海岸あり。ハボマへ平候邊の方候
の本多寄り。ノト口 洞 船 平 候 の 出 陣 中
て又カリ候と 振の本多寄り。こより 船と東
水の方へ出り寄り。レフタナイ。ホロアツ
クニ 船 迎 候 の 本 多 寄 不 一。ウエニヤルニナイ 船
渡りの川あり 奥の洞あり。ハハ 船 平 あり
。ニクムニナイ 変より ホロヒラ この色都
く 岩 岬 洞 と び え 支 ち 風 系 あり
よ 死 あり。ヲニ子ナイ

多ニヤニ
ニシロ、レ
八里
表をあるる。今人の船はけり
よりこも死する人あり 船渡り

の川さつあり 船渡りあり 左をさつあり
風系より 船とありて。ハチコナイ。ラ
ニクニトナイ。ヒタニナイ。フランノウニナイ
物渡あり。アラコエウニナイ 大岩 岬 候 邊
くあり。クフエ、ナイ。ヘヲマナイ。キイタ
ウニナイ 船とあり 船とあり。テイカイ
巖をさびえ支たり。ウホ、ナイ 色より 平
候あり。ベウレテカ。サカマウニベツ川あり。ア
ナイボ 候 邊 を 少く あり。トメウニナイ。ク
ウセウニナイ 船とあり。レウチリニカ
エ。アニホクナイ 川あり。コチホヲナイ 出陣

カシツワクナイ

白路々

ナヨロト

人衆あり。平漢上の方皆平山樹
本多一川川を結の漢より此也

石りのと火も人衆あり。止宿を破漢を

少く好く。ラマナイ破不かくの押ありあり

く砂漢路あり

ナヨロ

クニユニナイ

人衆あり。宜ましくお困け村ありと
あましくなる世帯の川を川流を

僅よ四五尺の深さあり。小舟を入る。瀬ハき

深めて船波き難く。鯉鱒多し。キニラニケニ

砂漢あり。ホロツ小流。ホニベツを水あり

俱春河

ライチニシ

人衆あり。クニユニ河に流し。電改
度は最上常非地を測る

山極四十八度ありといふ

クニユニ河と流し。九六里許あり。カムイコタニ

小宿一陸路山中と二里をかり。小派の傍に

出。二里より二里をくりり。トウベツ。チ

ハヤニ小宿一。お三日ハ東岸の摩羅川よ出

あり。九十九の六里あり。と山中ト。モこの木

立多く極めく。益あり

クニユニナイ河と流す。ホニナイを平垣あり。ノ

ツシヤフ人衆あり。少く。の岩押をあり。ラダス

ツ砂破あり。ルクニナイ人衆あり

來進進河

コダレトル

人衆あり。川内よ三百石積の船波
入る。谷はとも川流の深さあり

あり。少く。流す。水は出。火あり。とも。六十

北の方面に十里許あり、満州の地と望む山川を
牛用路
モロコタニ
一日路
人衆あり、海岸は入江あり、千石積二
三艘も入るべし、往年吳船二艘來船
せし、石あり、入江は喜実多く、諸方より出稼乃
場あり。ウロウ子小流あり。ホロ子之船多く盛
ありと此を村より人多く來るといふ。イハシ

コダレウトル
ウシヨロ
一日路
人衆あり、船泊り、その左右を砂
浜あり、路より長ハモこの亦之

石の方には十里許あり、満州の地と望む山川を

牛用路
モロコタニ
一日路

人衆あり、海岸は入江あり、千石積二
三艘も入るべし、往年吳船二艘來船

せし、石あり、入江は喜実多く、諸方より出稼乃
場あり。ウロウ子小流あり。ホロ子之船多く盛

ありと此を村より人多く來るといふ。イハシ

山丹人の圖



正緒

かきぬきもえをまじりし
此なきは、此は、何なり
こゝろちをわき

廿三

り砂浜あり。トラ、口狹丸を極の入江あり。奥
ふつたぐらわりの。ラロウと砂地あり。シヨウヤ
砂浜あり。この辺冬月ハ七八町の沖まぐ氷と
あり。このよ

モロコタン

丸ウコガモ
人衆小川あり。舟川より以水自蒸
と丹の風俗より佳き。根底

小艇夷國説と云く知るべし

○東廻り村と港と記

ニラヌニ
コニフイ
十二里
ナイの砂浜ト七八町をかり城あり
グイ一名チシヤといふ。和義經の城跡ありと
いハ方百るむり三方の地あり。海を役け方

る海岸の小島あり。和義經の城あり

能渡路 此地舟一極南の岬あり。シヤと對

時一東大洋の海峡あり。逆浪洪濤岸と
らち人と尋る。海をせむ。この岬とあり。ハラマト

コレボ岩嶺あり。ホロトコレボまき。西南へ出
たる。カモイシヤハとの入岩の岬あり。七人

あか坂通ると死ハ必ぬと云ふ。チウシ大岩
岩の岬あり。ここより少針と云うまき

大岩岬 一つここより。ハエカルクタン大岩岬と
こえく。ベサ、シ岩岸あり。大懸和。ルイニヤ

ニ。ス、エ砂破あり。ヲタレエ岩嶺。ヲホツタ
ラリ岩嶺岬あり。チシヤ小島あり

多し。ホロトマリ。ヒシヤサニ砂地あり。深え

東をのぼるに海にけしんき里をうりのる
砂浜あり。午、正をよより又大岩あり。午
フクミ。モコチロフ砂浜あり

コンフィ
リヤトマリ
一里
東をあり止岩とて川に船多
トウコタニ砂浜あり。トコメト人

水あり。ヘトロイ人あり。イナウシ人あり
ユタニエトモとく暖ある地あり

リヤトマリ
ウルウレ
九里
東を二里人あり岩あり
子とありともいふきありその

くろくろくあり
きありかしの岩ありとて。ホニソウ小
船あり。ハアラキナイ小川あり。フルエ川

此辺よりかき平地とてなるあり。トマリ

ヨシナイ川あり陸へ平あり。ヘミウトル川
イタクウニナイ平あり。午、海岸

祖あり。ベシトル小川あり

卵流
リラレ
四里
東をまね人あり又出稼
純美の漢区一試地平垣

あぐよく開けり。ひらき維木あり。ウルウ川
船多し。東を前岩あり。船をみる

沖をうりあり。破淡とけき。エカウ子ナイ
小川あり。ホロナイホ東を川あり。ケ子ウ

三人家川あり。クナンチイ人あり。砂をよて
陸へ平あり。ヌカリ極多し

リラ
ルウカカ
一里
東をまね人あり。船に沖をうり
此辺波浪とて。船あり。漢捕ウル

ウ小園あるト砂あり

ルウタカ 岨でくせだをきり人あり出稼をの場あり

ヒララニナイ 二里半 ルウタカ川を六千百を許をウラコへ川

船を沖をそりまぐ。ウニラ岨をあり。ヲタコニ

ライチニ岨をあり砂あり

ヒララニナイ 岨を小川あり船を沖をそりまぐ。漢

海上一里半 獵をは辺大抵園ト陸を平をふく難

木多き一さるいあり。ヲニ子コタニ砂を漢あり。カ

ムイシヤハ人あり船ありゆり陸を系系の中と

船ありゆり流を湊を志を絶あり。ゲク

川あり。モシホ川あり。メナニサシ。ルエカヲマニ

シユシユヤ 人あり世和アニワ湾ありの奥地

ウニニナイ 二里 ありゆき波を浪ありかりもあり砂を漢あり

世をよりゆま入ると一日を踏す。タコイ人

衆ありこの所を一宿を志を絶ありのナイフツ

山ありの中をゆきを志を絶あり。土人をとら

るを絶ありといふ

トマリヲニナイ人あり。エントモヲロ人あり

あり。ハルニコ人あり砂をそり世を迎あり漢

迎ありふあり

ウニニナイ 岨ををきり人あり船あり

クニニコクニ 一里半 漢を獵ありヒララニを迎ありト。

ウコカリウニ。ウニラニ小川あり岩を押を

まのやをく。イクモエントモ。シユマライ。ハ

ソコトマリ人あり衆あり志を絶あり代を一名

ウフレカムイノホリあり

。サ子ナウシ。エントモカ大岩押あり。トエク
シ。トウコタニ。ナイラロ砂浜を過ぎ少イ内
あたる西南うけの地あり

ヲフイトマリ 大岩を人承あり 漁獲クニユナイ
チヘシヤニ 四里半 小同ト船をり 浜あり 此の地を
あめりてゆべー 平地あり。エニコロアナ

イ。ヲタサシ 此の地あり。セイ少一の岩
押あり 此れより 冬月ハ雪車あり 一月又ト
ナイラヤへ土人ハ載る。シヤコカイウニ
砂乃。ニユ子ウニナイ 大岩あり。ニトウニ岩
及び上なる地あり 其の形 柔礎を依ぎ 如
岩押をとり。ハチユベツ岩押あり 人承あり
。チエトマイ 大岩を人承あり。レブンゲベツカ

此の地。ソウヤ岩押をとり。キナウニナイ

千ヘシヤニ 大岩を人承あり 此の地
トウフツレ 此の地あり 此の地あり

此の地あり 此の地あり 此の地あり

此の地あり 此の地あり 此の地あり

此の地あり 此の地あり 此の地あり

此の地あり 此の地あり 此の地あり

此の地あり 此の地あり 此の地あり

タナイホ砂漢せうたぬ中ちゆう許きょ。コウトツタナイホ
 女メ下ゲ許キョ。チシ子シイイ大ダイ岩イワンの出デ押オシととららて
 小コ岩イワン許キョ。ラタ口クチへ砂漢せうたぬ中ちゆう許きょ。クニエニヌ
 ツボ大ダイ岩イワン神カミととららて。ホントウフツ人ヒト家カあり
 社ヤシ上カミよ小コ洞アナあり漢せうたぬ辺ヘハハわわらら向むかけりりととららて許きょ
 。ソウヤラマベツ人ヒト家カあり小コ岩イワンの出デ押オシ不フ足ソク
 ありりととららて許きょありりととららて。カムイケイウウととららて
 。アイロウ人ヒト家カあり社ヤシ上カミよ砂漢せうたぬ社ヤシ邊ヘ世セ實ジツ向むか
 ありり凡マン路ロととららて許きょありりととららて。トナイチヤ人ヒト家カ九ク里リ
 社ヤシ不フトウフツのカ屋ヤありり凡マン一イツ日ニツととららてのオ石シととららて
 十ジュウ余ヨ里リととららて

トウフツより大ダイ洞アナ オカカララスス多タ多タのノ人ヒトハハ中チュウ洞アナ
 ところへ一イツ宿シュク一イツ日ニツ東トウ路ロへヘととららて日ニツ余ヨととららて

小コ岩イワン許キョのトナイチヤへ出デるる南ミナミホタカハイハイあり

トナイチヤ人ヒト家カあり止ト宿シュクととららて一イツ日ニツととららて漢せうたぬ

ウエニチヤ ウエエニニチチヤヤ ベヒヒリリととららて許きょありりととららて

ラムトウ。ホチヨホカ人ヒト家カあり。ラタウトル

アエルツラ

ウエニコ 人ヒト家カあり止ト宿シュクととららて陸リク地チへ平ヘイ山サンあり

シマラコタン シママララココタタン ウエエニニチチヤヤ ベヒヒリリととららて許きょありりととららて

シマラコタン シママララココタタン ウエエニニチチヤヤ ベヒヒリリととららて許きょありりととららて

イヌニチヤ イヌヌニニチチヤヤ ウエエニニチチヤヤ ベヒヒリリととららて許きょありりととららて

八里 ハチチリリ ウエエニニチチヤヤ ベヒヒリリととららて許きょありりととららて

イヌニチヤ イヌヌニニチチヤヤ ウエエニニチチヤヤ ベヒヒリリととららて許きょありりととららて

六里 ロクリ ウエエニニチチヤヤ ベヒヒリリととららて許きょありりととららて

七海道中記上 四 文苑閣

川あり。ノニアク人衆あり。夫より川多し。

三ウチナイ 人衆あり止宿まへへ坂の根の本を

ホニナイ 六里 小川あり。ニヨニナイ。ラニヨイフニ

人衆あり。船は波よりニラエウしと云ふ。タコイ

。ロレイ人衆あり。サツマチ人衆あり

ホニナイ 人衆あり止宿まへへ坂の根の本を

ナイフツ 六里 小川あり。漢迎の東向。フレベラト

リ人衆あり。ニエウレナイ人衆小川あり。ニ

ユマヤ大雲の岸あり人衆小川あり。ソウカヤ

人衆あり。坂子泥あり。かへく川あり

船は泊る。多原のナイフツ泥より物有云

里降との川はマツ百有降

南方より 二日ヨニヤ 二日降ありと云ふハ

タコイのまま

タコイのまま

タコイのまま

タコイのまま

タコイのまま

タコイのまま

タコイのまま

タコイのまま

タコイのまま

タコイのまま

タコイのまま

タコイのまま

タコイのまま

タコイ人衆あり川は深き
里むろう 泥あり。船は波より

ナイブツ 人衆あり止宿まへへ坂の根の本を

シルトル 五里 少く深き海あり。アエ人衆あり

砂路をありひきく

シルトル 人衆あり止宿まへへ坂の根の本を

マトマナイ 四里 漢の東を向けり。ラタツニヤン

人衆小川あり。船は波より出押あり

マトマナイ 人衆を止宿まへへ坂の根の本を

マアヌヒト 八里 。

人衆を。ケ子ウニ岩岸に。ニラ台、人衆を砂路

麻縫 人衆を止宿まへへ坂の根の本を

一日路 西都より船は波より川は多し

七海道中記 一〇一 七七

有泥ありありとくく奥あはし。ツアレ人衆あり。ヘレヨロ。マクレコタン。スホリホ等出御せし

ホヤンケイ 人衆を止宿より一故よむ海岸岩
ナヨロ 一日路 既而小あり。ヌイ人衆あり。シリウ

トル人衆あり。コタケケ人衆あり。此辺へ海いよく
程ありく。溪辺に少く南よむけり

ナヨロ 人衆を止宿まで一程あり奥へ舟風
ヨツベト 一日路 俗。ラロツコ。タライカ人しもの傍より由

社あり流橋ありの傍に。レイベシ。ラロツコ。川の
より由あり。ラロツコ人衆一海岸あり。タライカ

人の傍より一程あり。いさゞ。掻着の切着あり。と
五化不後後せざる事あり

蝦夷行程記卷之上附録 平



